



主治医の一言

第13号
平成28年5月発行
内科 刀塚俊起

☆どうぞご自由にお持ち帰りください☆

新緑がまぶしい5月になりました。ゴールデンウィークが終り、疲れが残っていませんか？

今月は血液内科の紹介をします。

血液内科

血液検査での異常や、リンパ節の腫れ、原因不明の発熱が続く場合はご相談ください。



貧血

医学的に、貧血とは赤血球が減っている状態を言います。顔色が悪くなったり、ふらついたりすることではありません。原因は、大きく二つあります。一つは、どこかから血液が失われていること、二つめは、赤血球を造る材料が不足していることです。外傷で出血すれば当然ですが、内蔵から少しづつ出血している場合は、自覚症状はありません。一番多いのが、胃や腸の消化管からの出血です。貧血があれば、まず胃腸の検査が必要です。二つめの赤血球をつくる材料で、最も重要であるのが鉄です。鉄が不足する鉄欠乏性貧血が、貧血の中では一番よく見られます。

鉄は肉や牛乳、野菜などに多く含まれています。普通の食事を摂っていて鉄が不足することはありません。成長期で、スポーツなどの激しい運動をすると鉄の消費が早く、鉄が不足する場合があります。成長期の鉄欠乏性貧血です。この場合は鉄剤によって回復します。問題は、大人の鉄欠乏性貧血です。原因をしっかりと調べる必要があります。一つめの胃腸からの出血が原因の場合もあります。

白血球減少

白血球数が減っていることを言います。白血球が減る原因は、大きく感染症と血液の病気です。薬剤

♪糖尿病教室♪ ※糖尿病以外の方、ご家族も大歓迎です。

5月11日(水) 糖尿病の薬物療法 薬剤師：内藤義徳
時間：16時30分～17時30分 場所：真生会富山病院 さくら病棟 指導室1

5月25日(水) 糖尿病の運動療法 ウォークラリー 日本糖尿病療養指導士：今城都志枝
時間：16時30分～17時30分 場所：真生会富山病院 さくら病棟 指導室1

♪医学講座♪

5月19日(木) CTとMRIってどう違うの？
時間：16時00分～16時30分 場所：真生会富山病院 整形外科待合 (総合受付横)

の副作用ということもあります。一回の検査で減少していても、二回目は正常ということもあります。詳しい検査が必要となりますので、受診をお勧めします。

血小板減少

血小板数が減少していることを言います。血小板が減る原因も、感染症と血液の病気です。白血球と同じく薬剤の副作用ということもあります。10万以下なのか、5万以下なのかで対応が大きく異なります。急を要することもありますので、早めの受診をお勧めします。

リンパ節の腫れ

リンパ球は、外から入ってくるウイルスや細菌から身体を守る免疫の中心的な役割を果たしています。全身にリンパ管が張り巡らされており、リンパ球が移動して異物に備えています。その節目がリンパ節です。身体にウイルスや細菌が入り込むとその部分のリンパ節にリンパ球が集合して来ます。主に頸部と腋窩（脇の下）そけい部（足の付け根）にリンパ節が集まっています。感染を起した部位のリンパ節が腫れてきます。これがリンパ節炎です。一般にリンパ節炎は発熱と疼痛を伴っています。原因のウイルスや細菌を治療することによって治って行きます。

ところが、発熱も疼痛もなくリンパ節が腫れてくることがあります。この場合は、リンパ腫などの腫瘍による場合も含まれます。1cmを越える場合は、リンパ節を生検して調べることもあります。一度受診されることをお勧めします。

原因不明の発熱

発熱の多くは感染症です。感染症の中で一番多いのが風邪です。次に多いのがいろいろな部位の感染症です。ところが病院で検査、治療しても熱が下がらず、原因が分からない場合があります。それを不明熱と言います。不明熱は、血液の病気が多く含まれます。また膠原病のような病気が隠れている場合もあります。詳しい検査が必要になりますので、血液内科への受診をお勧めします。

